

第2学年 国語科学習指導案

日 時 平成20年9月30日(火) 6校時
児 童 2年生 14名
指導者 箱 石 悟

- 1 単元名 ようすを考えて読もう
教材名 お手紙

2 単元について

(1) 教材について

第1学年及び第2学年の「C読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気づきながら読まむことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる」ことである。

本単元で育てたい主となる能力は、「ウ. 場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと」及び「エ. 語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと」である。そこで、本教材の学習を通して、「誰が・どうした」に気をつけて、登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読んだり、声に出して読んだりし、二人の友情のお話を楽しむこと」を目標としている。

本教材は、登場人物が親しみやすく、場面の移り変わりも単純で分かりやすい。何気ない日常生活の中でのがまくんとかえるくんのほのぼのとした友情をテーマにしており、この時期の子どもにとって共感しやすく、想像を広げて読むことにふさわしいと考える。また、会話文が多く、二人の心情が生き生きと描かれており、二人の性格や関係、気持ちの移り変わりを考えながら、楽しんで読むことができる教材である。

(2) 児童について

児童はこれまでに「ふきのとう」や「スイミー」で、場面の様子や登場人物の気持ちを考えながら読む学習を行ってきた。これらの学習を通して、登場人物の気持ちがわかる文や言葉を見つけてサイドラインを引くことができるようになってきている。しかし、サイドラインを長く引く児童や自分の言葉で吹き出しに書くことを苦手としている児童もいる。また、語彙が不足しているために意味が理解できなかつたり、自分の知っていることに置き換えて呼んだりして、叙述に沿って正確に読み取ることができない実態もある。

1年生時に実施したCRTの「読む能力」の得点率は73.1%となっており、特に「どんな話か考えながら読むこと」の力が劣っている。また、読解力事前テストは平均85.3点で、登場人物の行動を順序に沿って読み取り、正しく抜き書きすることのできない児童が半数いることが分かった。

また、学級には特別支援を必要とする児童がいて、サポートの先生の支援を受けながら学習を進めている。

(3) 指導にあたって

本教材の指導にあたっては、登場人物になったつもりで音読する活動を十分に取り入れて学習を進めていきたい。

「つかむ・見通す」段階では、手紙をもらった経験を話し合わせ、教材文への興味づけにつなげたい。そして、それぞれの会話文が誰の言葉を正しく捉えさせたい。

「深める」段階では、登場人物の気持ちを読み深めさせるために、会話や行動にサイドラインを引かせ、抜き書きさせたい。このことにより、一つ一つの言葉や登場人物の言い回しに着目させることができると考える。さらに、挿絵を効果的に活用し、想像を広げる手がかりとしたい。そして、読み取ったことを生かして、登場人物になりきり、吹き出しを書く活動を行いたい。

「まとめる」段階では、吹き出しを振り返りながら登場人物になりきらせ、楽しく音読させたい。

「広げる」段階では、これまで学習してきたことをもとに、登場人物に宛てて手紙を書かせたい。

3 単元の目標

【関心・意欲・態度】

- 登場人物の特徴をつかみ、楽しく音読しようとしている。

【読むこと】

- ◎ 場面の様子や登場人物の気持ちについて想像しながら読むことができる。
- 登場人物の気持ちがよく表れるように、語や文のまとまり、声の大きさに注意して読むことができる。

【言語事項】

- 主語と述語との関係に注意して読んだり書いたりすることができる。

4 単元の指導計画（全14時間）

段階	時	学習活動	具体的評価規準	努力を要する児童への支援
つかむ・見通す	1	教師の範読を聞き、物語のイメージをもち、初発の感想を書く。 ◇感想	関・読：あらすじをとらえながら、おもしろかったところや好きなどころをわけをそえて、初発の感想を書くことができる。	「お手紙」の中の登場人物を確認し、挿絵を見ながら、その人物が何をしているところなのか考えさせ、感想をもつようにさせる。
	2	誰が話しているのかを確かめ、新出漢字と、言葉の使い方を学習する。	読・言：話しているのは誰か、新出漢字、語や文のまとまりに気を付けて、はっきり正しく読むことができる。	会話文の上に、誰の会話文か色分けしてシールを貼らせる。
	3	場面分けをし、学習の計画を立てる。 ◇小見出し	読・関：がまくんやかえるくんの行動や場面の様子などをもとにして、5つの場面に分けることができる。	順番に挿絵を見て、がまくんやかえるくんの行動を確認させる。
深める	4	がまくんとかえるくんが悲しい気分になった理由やふたりの気持ちを読みとる。 ◇サイドライン ◇囲み ◇吹き出し	読：ふたりとも悲しい気分になった理由をとらえ、お手紙を待つふたりの気持ちやその様子を想像しながら読み取ることができる。	どうしてふたりとも悲しい気分なのか、がわかる部分を会話文から見つけさせる。
	5	大急ぎでお手紙を書き、かたつむりくんに託すかえるくんの優しい心づかいを読み取る。 ◇サイドライン ◇囲み ◇吹き出し	読：かえるくんの行動から、少しでも早くがまくんにお手紙を届けたいというかえるくんの想いを想像しながら読み取ることができる。	かえるくんの行動を順番に本文から見つけ出し、かえるくんがどんな気持ちで手紙を書いたのか考えさせる。
	6	お手紙の到着を待ちきれないかえるくんと、悲観的になっているがまくんの様子を読み取る。 ◇サイドライン ◇囲み ◇吹き出し	読：手紙を待つかえるくんと、悲観的になっているがまくんを対比的にとらえ、ふたりの気持ちや様子を想像しながら読み取ることができる。	会話文を読み、がまくんが悲観的になっていることをおさえさせる。窓から外をのぞくかえるくんの気持ちを考えさせる。

	7 本時	がまくんとかえるくんが幸せな気持ちになった理由やふたりの気持ちを読み取る。 ◇サイドライン ◇抜き書き ◇吹き出し	読：かえるくんの優しさに感動するがまくんと、親友であるがまくんの喜びを自分の喜びと感じるかえるくんの気持ちを読み取ることができる。	かえるくんがお手紙を出したことを知り、がまくんはどんな気持ちだったかを考えさせて吹き出しに書かせる。
	8	手紙が届いたときのふたりの気持ちを読みとる。 ◇サイドライン ◇囲み ◇吹き出し	読：手紙を待っていた4日間のふたりの様子や手紙が届いたときのふたりの気持ちを読み取ることができる。	教科書を読んで、お手紙が届くのを待ちに待っていたことに気付かせ、お手紙が届いたときの気持ちを考えさせる。
ま と め る 2	9	全文を読み、自分が読んでみたい役割を決める。	関：全文を登場人物の気持ちになって読み、音読発表会で自分が読んでみたい役割を決めることができる。	全文の場面の読みを想起させるとともに、自分の好きな登場人物を選ぶように勧める。
	10	4～5人グループを作り、グループごとに音読の練習をする。	関：音読発表会に向けて、自分の役割に合わせた読み方を工夫して読み、どこに気をつければいいかグループの人に伝えることができる。	自分の読むところに印をつけておく。登場人物の気持ちを考えながら、役になりきって読む練習をさせる。
	11 12	音読発表会をする。	関：自分の役割に合わせた読み方で、みんなが聞きやすい音読をすることができる。他のグループの発表を自分たちの発表と比べながら聞くことができる。	グループの人の音読をよく聞き、どこを読んでいるのか指でなぞらせる。友だちの発表のよいところを見つけさせる。
広 げ る 4	13	登場人物にあてて、手紙を書く。	関：これまでの学習をもとにがまくん、かえるくんのどちらかにあてて、行動や会話から自分が思ったことを手紙に書くことができる。	自分の好きな登場人物にお手紙を書かせる。その登場人物が目の前にいたら、どんなことを言いたいか考えさせる。
	14	書いた手紙を紹介し合う。	関：がまくん、かえるくんのどちらかにあてた手紙をみんなに紹介し、友だちの書いた手紙のよいところを話すことができる。	自分が書いた手紙を大きな声でみんなに発表させる。

5 本時の指導

(1) 本時の目標

【関心・意欲・態度】

- 登場人物や場面の様子を考えながら、楽しんでお話を読もうとする。

【読むこと】

- ◎ がまくんとかえるくんが幸せな気持ちになった理由やふたりの気持ちを読み取ることができる。

(2) 本時の書く活動

本時場面では、かえるくんとがまがえるくん両方が幸せな気持ちになっていくさまを読み取らせる。その際、がまがえるくんが今まで落ち込んでいた気持ちが幸せな気持ちに変わる会話文や語句はどこかを考え、サイドラインを引かせる。その他、落ち込んでいたがまがえるくんを喜ばせたいと願うかえるくんの心情を読み取らせる。そして、双方が幸せな気持ちになって玄関先に座っているときの気持ちを考えさせたい。

(3) 本時の展開

◇書く活動 ◎主となる「書く活動」に関わる部分 ☆支援 ○評価

段階	学習活動	教師の発問と指示	予想される反応	評価と支援
つかむ 3分	1. 前時の学習内容を想起する。 2. 学習課題をつかむ。 お手紙をまっているとき、ふたりはどんなことを話していたのだろう。	・ 3 の場面では、かえるくんとがまくんはどんな気持ちだったでしょう。	・ か：早くがまくんを喜ばせてあげたい。かたつむりくん早く来ないかな。 が：手紙を待つなんてもうやめた。どうせ誰からも来ないんだから。	☆教室掲示を参考に前時の学習を想起させる。
見通す 2分	3. 学習の見通しを持つ。	・ かえるくんやがまくんの気持ちがわかるのは、どこに気をつけて読んでいけばいいですか。 ・ 4 の場面はどこからどこまでですか。	・ 「会話文」 ・ 「お手紙の内容」 ・ P 1 2 の L 6 から P 1 5 の L 4 までです。	☆どの部分に着目して考えていけばよいかを確認させる。
深める 30分	4. 学習場面を音読する。 ・ 個人読み ・ 一斉読み 5. 学習課題について考える。 (1) かえるくんががまくんにお手紙のことを話したわけを読み取らせる。	・ がまくんとかえるくんの会話に気をつけながら読みましょう。 ・ ずっと窓の外を見ているかえるくんを見て、がまくんはなんと言いましたか。 ・ それに対して、かえるくんは何と答えましたか。 ・ 「来るよ。」「来ないよ。」のやりとりをしていて、かえるくんはとうとうがまくんになんと言いましたか。	・ 「かえるくん、どうして、きみ、ずっと、まどの外を見ているの。」 ・ 「だって、今、ぼく、お手紙をまっているんだもの。」 ・ 「だって、ぼくが、きみにお手紙出したんだもの。」	☆4 の場面の大まかな状況を押さえさせる。 ☆挿絵①提示する。 ☆挿絵②を提示する。

<p>深める 30分 深める 30分</p>	<p>(2) お手紙の内容とがまくんの会話から、お手紙のことを知ったがまくんの気持ちを読み取らせる。 ◇サイドライン</p> <p>◇サイドライン ◇抜き書き</p> <p>(3) 玄関に出てお手紙が来るのを待つがまくんとかえるくんの気持ちを読み取らせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それを聞いて、がまくんはなんと仰いましたか。 ・かえるくんががまくんにお手紙のことを話したのはなぜでしょう。 ・かえるくんはどんなお手紙を出したのでしょうか。 ・がまくんは、お手紙の中のどんな言葉が嬉しかったのでしょうか。嬉しかったと思う言葉にサイドラインを引きましょう。 ・がまくんの、嬉しい気持ちがわかる会話文にサイドラインを引きましょう。 ・お手紙の内容を聞いたがまくんを見て、かえるくんはどう思ったのでしょうか。 ・ふたりとも「しあわせ」ではなく、「ともしあわせ」なのはどのようにしてでしょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「きみが。」 ・「がまくんがとても悲しそうで、見ていられなかったから。」 ・「がまくんを早く喜ばせたかったから。」 ・「<u>親愛なる</u>」 ・「<u>親友であること</u>」 ・「<u>うれしく思っています。</u>」 ・「<u>きみの親友</u>」 ・「<u>ああ。</u>」 ・「<u>とてもいいお手紙だ。</u>」 ・「お手紙を書いてよかったな。」 ・「今度は返事がほしいな。」 ・「幸せよりも、もっと幸せだから。」 ・「お手紙の内容がとても嬉しかったから。」 ・「落ち込んでいたがまくんがしあわせそうな顔をしているから。」 ・「親友と言ってくれたから。」 	<ul style="list-style-type: none"> ☆がまくんの気持ちを想像させる。 ☆かえるくんの気持ちを想像させる。 ☆お手紙の紙板書を黒板に貼る。 ☆がまくんが、かえるくんという親友の存在に気づき、幸せな気持ちになったことに気付かせる。 ○がまくんの気持ちが分かる会話文にサイドラインを引くことができたか。 (教科書) ☆1の場面の挿絵と4の場面の挿絵を比べ、気持ちの変容をとらえさせる。
------------------------------------	--	--	---	--

<p>深める 30分</p>	<p>◇吹き出し</p> <p>・吹き出しに書いたことを発表する。</p>	<p>◎がまくんだけではなく、ふたりとも幸せな気持ちでお手紙を待っているときどんなお話をしながら待っていたのでしょうか。吹き出しに書きましょう。</p> <p>・自分が吹き出しに書いた、がまくんとかえるくんの気持ちをみんなに紹介しましょう。</p>	<p>・が：初めてもらったお手紙がきみからでよかったよ。ぼくたち親友なんだね。等</p> <p>か：がまくんが喜んでくれて僕も嬉しいよ。等</p>	<p>○気持ちを読み取って吹き出しに書くことができたか。 (ノート)</p> <p>○自分が考えた気持ちを友だちに伝えるように発表できたか。(発表)</p>
<p>まとめる 10分</p>	<p>6. 今日の学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>が：初めてもらったお手紙がきみからでよかったよ。ぼくたち親友なんだね。早く読みたいな。かえるくんありがとう。等</p> <p>か：がまくんが喜んでくれて僕も嬉しいよ。お手紙を書いてよかったな。とてもいいお手紙だとくれて嬉しいよ。等</p> </div> <p>7. まとめの音読をする。 ・一斉音読</p> <p>8. 学習を振り返る。 ・自己評価</p> <p>9. 次時の学習を知る。</p>	<p>・ふたりの様子を想像しながら読みましょう。</p> <p>・今日の学習の自己評価をしましょう。</p> <p>・次の時間は、5の場面「手紙が届いたときの2人の気持ち」を読み取っていきましょう。</p>	<p>・自己評価を書く。 (◎・○・△)</p>	<p>☆児童が発表したことを、まとめて板書する。</p> <p>☆かえるくんとがまくんのようにならぬように幸せな気持ちで音読をさせる。</p> <p>○今日の学習でふたりの幸せな気持ちを読み取ることができたか。 (ノート)</p>

(4) 評価

【読むこと】

◎ 挿絵を参考にしながら、がまくん、かえるくんの気持ちや場面の様子などについて想像を広げながら読み、さまざまな感想をもつことができたか。(観察、発言、ノート)

A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する児童への支援
<p>二人とも幸せな気持ちで座っている理由を読み取り、互いを想う気持ちを吹き出しに書くことができる。</p>	<p>二人とも幸せな気持ちで座っている理由を読み取り、吹き出しに書くことができる。</p>	<p>かえるくんがお手紙を出したことを知り、がまくんはどんな気持ちだったかを考えて吹き出しに書かせる。</p>

(5) 板書計画

ようすを考えて読もう
お手紙

アーノルドローベル

四かだい
お手紙をまつていると
き、ふたりはどんなことを
話していたのだろう。

挿絵①
「かえるくん、どうして、きみ、
ずつと、まどの外を見ているの。」
「だって、いま、ぼく、お手紙を
まつているんだもの。」

挿絵②
「だって、ぼくが、きみにお手紙
出したんだもの。」
「きみが。」

「親愛なるがまがえるくん。
ぼくは、きみがぼくの親友で
あることを、うれしく思ってい
ます。きみの親友、かえる。」

「ああ。」

「とてもいいお手紙だ。」

ふしあわせ
←
とてもしあわせ

きみ初めてもらったお手紙が
ぼくたち親友なんだね。
かえるくんありがとう。

がまくんがよろこんでくれて
ぼくもううれしいよ。
お手紙を書いてよかったな。
とてもいいお手紙だとくれて
うれしいよ。

挿絵③